

yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 1 1

平成19年5月28日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

ランドセルシリーズ

子どもたちがパソコン室の授業に来るとき、特に低学年では、「今日はランドセルやりたいなあ」という言葉をよく聞きます。

ランドセルシリーズは、各学年の教科ごとの単元に合ったドリルだったり、調べ学習の参考になったり、「昼休み」と称して教科に沿ったゲームができたりと、たいへん多彩なコンテンツ(内容)が盛りだくさんの、学年別教材ソフトです。

基本的には、画面との対話による、自習形式です。

1年生のマウス操作の練習でこのソフトを使うので、スキル授業として子どもたちがパソコン室でまず触れるのがランドセルシリーズ(1年生用)です。また、昨年までの昼休み開放でも、低学年での1番人気がこれでした。

単元の導入や、まとめの時間にこのソフトを使うことは、とてもいいと思います。一つの単元むけコンテンツだけで1時間は必要ないので、単元の始めや終わりに、ちょっとパソコンで、というには向いています。

しかし、今、ゲーム世代の子どもたちにとって、ランドセルシリーズはゲームの延長でしかない場合が多いように思います。操作は、クリックやドラッグだけ。ゲーム機のコントローラをマウスに持ち替えた形で、答えをクリックするのも、問題を理解した上で考える、ということを全くせずに、ただ当てずっぽうにクリックして、「当たった！」と喜ぶのです。冒頭の言葉も、「今日は遊びたいなあ」と聞こえてきます。

もちろん、きちんと答えを出してからクリックしている子どもも少なくはありませんが、遊びになっている子どもたちが目に付きます。

ランドセルシリーズを初めとして、インターネット上の教材サイト(算数のドリルなど)が謳っている「楽しみながら学習」というのは、楽しければ楽しいほど、とても危ないです。スキル授業では、「楽しく・無理なく・さりげなくスキルアップ」を目指して教材などを工夫していますが、ここでは、「遊び」にならないよう、目配りが欠かせません。

上手に使えるば、ランドセルシリーズは、とてもいい教材です。是非ご自身で触れてみて、効果的に授業での活用ができるよう、ご検討下さい。そして、くれぐれも、遊びになることで、授業時間が無駄になりませんように。